

編 集 後 記

イラクでの戦争が終結した後、世界的な話題になったのが重症急性呼吸器症候群（SARS）でした。中国、香港、台湾などアジアの近い国から世界各国に患者が広がりました。山形大学附属病院でもこれらの感染症に対応できる診察室などが用意されましたが、幸いなことに今のところ使用しないで済んでいます。冬に SARS が再燃するのではないかという不安も残っております。ごく最近の話題では宮城県を中心に地震が多発しております。感染症も地震も被害を最小にするには普段の備えが大切です。杞憂に終わると良いのですが、備えあれば憂いなしです。投稿論文の方も是非日頃から備えていただければと思います。

あまり良いニュースがない中で山形大学医学部にとって素晴らしいニュースがあります。それは平成 15 年度 21 世紀 COE (Center of Excellence) プログラムに本医学部から申請されていたプロジェクトが採択されたことです。本学の教育・研究の発展が加速されることになります。その影響で本紀要の方にも投稿論文が増すことを密かに期待しております。

さて、今回の山形医学には原著 4 編、新しく教授になられたお二人の先生方の総説 2 編、アメリカに留学されている先生の留学報告（トピックス）1 編、その他に山形で開催された研究会と本学部で開催された実験動物セミナー研究成果発表会の抄録が掲載されております。暑い日が続きますが、仕事の合間に自分の専門領域以外の論文を読んでも悪くないと思います。是非お目を通していただきたいと思います。

編集委員長 荻 野 利 彦（平成 15 年 8 月）